

科目名 (科目番号)	輸血・移植検査学実習 (時間割参照)	教員名 柴山 修司	学科等	臨床検査	必修	履修年次	3
			曜日・時限等	時間割表参照	単位数	1	
			授業形態	実験・実習	オフィスアワー	水1 B208研究室	
授業概要	輸血検査は血液型検査、交差適合試験そして不規則抗体検査が基本となるが、医療現場での安全な輸血には血液型の亜型検査やRhD陰性確認試験は重要であり、間接・直接抗グロブリン試験や抗体解離試験を含めた学内実習を行う。また、自己抗体や母児間血液型不適合の際の検査法についても修得する。						
目的・目標	目的：輸血検査の基本である血液型判定、交差適合試験そして適合血の選択法について、その検査法と輸血副作用を理解する。 目標：① 血液型判定、不規則抗体検査と交差適合試験の理論と実技操作を理解できる。 ② 輸血での適合血選択に関する検査結果の解析と評価法を理解できる。						
準備学習	毎回の授業の到達目標と学習内容を十分に理解しておくこと。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	輸血検査の基本(検体の取り扱いを含む)	到達目標:凝集反応の判定技術を説明できる。 学習内容:輸血検査の書類・検体の取扱い方、凝集反応の凝集の強さ判定				
	2	ABO・Rh(D)血液型検査	到達目標:血液型の判定法を説明できる。 学習内容:ABO血液型、Rh(D)血液型検査、D陰性確認試験、カラム凝集法				
	3	亜型検査(唾液検査を含む)	到達目標:亜型の特徴とその検査法を説明できる。 学習内容:亜型検索のための抗体解離試験、唾液検査、レクチン検査、糖転移酵素検査				
	4	不規則抗体スクリーニング検査	到達目標:患者血清中の抗体検出ができ、抗グロブリン法の原理を説明できる。 学習内容:不規則抗体のスクリーニング検査法(食塩水法、酵素法、LISS-IAT法、PEG-IAT法)				
	5	不規則抗体同定検査	到達目標:不規則抗体の性状とその同定法を説明できる。 学習内容:不規則抗体スクリーニング検査、同定検査				
	6	自己抗体・母児不適合の検査	到達目標:自己免疫性溶血性貧血、新生児溶血性疾患の機序を、説明できる。 学習内容:直接抗グロブリン抗体試験、解離抗体の特異性検査、自己抗体検出				
	7	交差適合試験	到達目標:交差適合試験を行うことができ、交差試験の意味を説明できる。 学習内容:交差適合試験(生食法、酵素法、LISS・PEG法)				
	8	輸血検査結果の解析と評価	到達目標:適合血選択の検査を理解し、不適合となった場合の対処法を説明できる。 学習内容:適合血供給のための輸血前検査、輸血血の選択基準、輸血業務				
成績評価の方法・基準	レポート(100%)						
教科書	輸血・移植検査技術教本		社団法人日本臨床検査技師会		丸善出版		
参考図書	最新臨床検査学講座 免疫検査学		窪田哲朗、藤田清貴、 細井英司、梶原道子 編		医歯薬出版社		
教員からのメッセージ	輸血検査は臨地実習を行うために知識と技術の取得が必須な検査です。知識と技術を身に付け自信を持って検査ができるようになりましょう。病院輸血部で勤務した臨床検査技師がこの実習を担当します。						